

第2回 三条大橋デザイン検討会議 摘録

日 時：令和3年10月22日 午後2時～午後4時

場 所：京都ホテルオークラ 4階 暁雲

出席者：委員14名，報道機関：4社，傍聴者：3名

1 開会の辞，会の進め方の説明

2 デザイン・コンセプトについて

議長：今日で第2回目ですが，今回のデザイン会議で最終ではないものの，大きなデザインの方向が決まると思います。皆様それぞれのご意見を積極的に忌憚なくいただければ幸いです。

それでは前回の三条大橋に関する意見を集約してきましたので事務局の方からご説明をお願いします。

事務局：第2回の議題としましては「デザインコンセプトについて」と「施設のデザインについて」となります。

（デザインコンセプトの説明の前に三条大橋の歴史と周辺環境について説明。）

（第1回目の会議にて委員からの意見を元にとりまとめましたデザインコンセプト案について説明。）

委員の皆様からいただいた三条大橋のキーワードとなる言葉を抽出し，抽出したキーワードを系統別にグループ化し，「安全」「外から見られるデザイン」「歴史文化」「交流」の4つのグループにしています。

前回の委員の皆様意見を踏まえ，事務局でまとめたコンセプト案としては，次のとおりです。

「人々を暖かく迎えるみやびな京都の玄関としての橋」

「豊かな歴史と文化を未来に継承する京都らしい橋」

「京都の自然環境になじみ，まちを彩るシンボルとなる橋」

「安心安全を与え，周辺のまちの発展に資する橋」

これらのデザインコンセプト案につきましてご意見をいただければと思います。

議長：バラバラなキーワードを固めていく KJ 法で前回の意見をまとめて，このデザインコンセプトができたのですが，何か付け加えること，変えた方がいいというようなことがありましたらご意見をお願いしたいと思います。

委員：この周辺，特に三条周辺のゴミ問題で各関係者は困っている。橋を地域の方々に育てていく，そういう体制作りが重要かなと思っております。今後，マネジメントについても皆さんと一っしょに考えていただければコンセプトとしては十分だと思います。

議長：七条大橋では周辺の人が橋を美しくしたり，自分たちで照明，音楽会を実施したりとか，周辺の人が橋を大事に美しくしておられるので，ここに来ておられる関係者の皆様もそういう会ができたらいいと思います。

委員：デザインコンセプトを4つ抽出されていますが、上の3つはおそらく整理の段階で目的を達することかなと思います。最後の1つ、安心安全を与え周辺のまちの発展に資する橋なんですが、この部分についてはこれからのプロセスのデザインとか、具体的な指針があってもいいと思いました。周辺のまちの発展に資する橋、この部分だけ見ると昭和というか、かつての瀬戸大橋のようなまちの発展に資する橋というような捉え方が若干前時代的かなと言う気もしますし、はたして周辺のまちの発展、これは本当にどのようにイメージをしているのか、さらには発展を望んでいるのかということも含めて発展という単語に若干ひっかかりました。今回このような場でデザインを検討していることでもありますし、かつインバウンド観光も反省を含めて観光というものが大きく変わっていく中に、まちの持続性とか交流とかそういったようなもう少し現在の時代に合うような単語に置き換えたほうがいいのかという風に感じました。一言で置き換えるのは難しいですが、まちの交流とか展開とかニュアンスを変えた方が良くと思いました。

議長：御蔭橋は橋の改修を機に周辺全体の道路や上賀茂神社の鳥居も改修し、非常にまちの改造に取り組んでるが、この会ではそこまで範囲を広げるまでは至ってないですが、周辺の交流・発展ということは入れますか。

委員：魅力向上はどうでしょうか。

議長：魅力向上ですね。発展があるから魅力向上・発展にしますか。それから安心・安全・耐震とか洪水対策は今回のデザインとは別に検討しているようで、まずは橋の上部を改修して、下部は後から実施するようです。

鴨川という言葉は出てませんが、鴨川の美しい流れであるとか、京都の鴨川の自然環境というようなことをコンセプトに反映をお願いします。また、鴨川って言う言葉、京都の自然環境の中心とした鴨川はどうですか。

委員：このデザイン会議は三条大橋が中心ですが、都市計画から言うと三条京阪の跡地もまだはっきりしてませんし、その隣にある有済学区の跡地もどくなるかわからないという流れの中で、どういう位置付けにするか。この3回くらいの会議ではたぶん無理だと思うが、協議会みたいにきっちりとした形でまち作りを考えるようなことができたらいいいのでは。

事務局：今回の会議は三条大橋のデザインを検討していくことが目的であり、今後のまちづくりはまた違う形で考えていく課題であると考えます。

委員：質問を含めてですが、3番目の自然環境になじむということで鴨川も含まれるというか、いわゆる京都の景観、東山連峰も含めた三条大橋を、全体こういうのが自然環境になじむという意味合いになっているにか、どのようにお考えかお聞きしたい。鴨川全体からですと東の方に向くと京都の様々なビューポイントが、三条大橋にビューポイントがないようですけども、三条大橋を含めた東山をバックとしたそういう状態の自然環境どうお考えでしょうか。

事務局：三条大橋から見える景観としましては北山であったり鴨川であったり、東山も見えながら京阪三条駅も

あり、場所的には市街地の中心でありながら、そういった三条大橋から見える風景をコンセプトに取り入れていきたいと考えています。

委員：私もこの4点がうまくまとまっているなと思ってまして、順番も大事ななと思っています。

最初に出てくるのは京都の玄関としての橋ということで、そういう方向であれば少しそのデザインのところでもゲート製というか重きを置くような話になるかもしれないと思います。一番二番そのあたりがどちらを先に置くかというところかなという風に思いながら見てました。鉄道が出来て京都の玄関といえば京都駅という形に今ほとんどなっている。あえてここで再び京都の玄関というところを強くアピールしていくのも1つの方法としていいかと思っています。テーマだけでなく、並びにもそれなりにコンセプトとして、どれを重視するかというところに重きを置くかなと思ってます。わたしとしては修正しない方がいいと思います。

議長：立派なデザインコンセプトができたと思いますので、このデザインコンセプトに具体的にデザインの方向性を今日しっかりディスカッションしたいと思います。

委員：玄関口は京都駅が改修されてということですが、そうでなく三条大橋も玄関口ということは、我々世代は知っているんですが、若い人は東海道五十三次についてもどれだけの知識あるいは教えがあったのか存じ上げませんので、ここでいきなりその三条大橋のコンセプトが雅な京都の玄関となると、それがどういう意味かという風に思われるのではないかな。東海道の玄関とかでないかと一般の人、若い方にとってどうなのかなと思いました。

委員：ここであえて京都の玄関というのをもってくると、なんでかな、という気づきを与えてくれるのじゃないかなと思ってまして。京都らしい橋、歴史文化はさらっと通り過ぎて、あえてコンセプトでちょっと引っかかると、なんでかなという風な意味でも京都の玄関とあえて書いて、それを最初に置くって言うのはコンセプトとしてはいいのではないかなと思いました。

委員：街道の玄関という言葉を入れるかどうか。議論されたらいいかと。京都の街道の玄関口とか、みやびな玄関口とか。

委員：コンセプトの段階で京都らしさ、先ほどから玄関と言うことで、パッケージ化された和風であったり、観光客受けする用意された和風みたいなものを入れるのは少し違うかなと思っており、京都市の方が用意されていたコンセプトは、三条大橋のおあつらえだと感じており、要所のものを伝えられたいいいのかなと思います。

3 施設のデザインについて

事務局：(三条大橋の重要なデザインである木製高欄について、他の事例を含め説明、各施設(車両用防護柵、歩道舗装)のデザイン案を説明。)

議長:歩道の舗装と車両用防護柵についてご説明いただいたんですが、正直申しますと単純な気が強くなりました。シンプルな方がいいという人もあるかも知れませんが、先ほどの「人々を暖かく迎えるみやびな京都の玄関」にしてはちょっと物足りないと思ったんです。ちょっと新しいアイデアですが、今日ディスカッションしてもらえばいいと思ってスケッチを描いてみました。

「暖かくお迎えするみやびな京都」というメッセージですけど、暖かくお迎えするという意味では、歩道を木のフローリングにして柔らかく暖かい感じ、それから照明は今あるような形がいいという人もありますので、防護柵から光が入ってきて柔らかく照らす、という風なことを考えました。それから「みやび」を表現するようなものがあるかと思い、既設の防護柵をいかにも既製品で設置するのは物足りないので、四条大橋の車両用防護柵に鋳鉄製、濃いブルーの柵がありますが、あれは中々立派すぎかと思い、メインの高欄のほうが目立たなくなるんですけど、ちょっと凝ったデザインで、木製の高欄を阻害しない範囲で、少し新しくデザインしたような「みやび」を感じさせるようなものはどうだろうかという風に思いました。木製高欄は「歴史と文化」そういうものを感じるけど、こちらの防護柵の方は特別にデザインした他にはないもので、「みやび」を現してはどうかと考えました。

今回の場合、デザインコンセプトが具体化・具現化されていないと、利用する人は評価もしないし感激もしないし愛してくれることもないだろう。だから三条大橋というような世界的にも記念すべき日本を代表する橋に、ありきたりのものをポンと置いておくとするのは、非常にさみしいという風な感じがして、こういうスケッチを少しお示しして、意見を伺おうと思った次第です。ですから方向性として既製のシンプル、なぜシンプルがいいという人はなぜシンプルがいいのか、あるいは既製の物で本当にいいのか、三条大橋が本当にそれでいいのか、というようなことも含めて大きな方向性を示していただきたい。わたしはデザイナーじゃないので、そういう点に詳しい方にもご意見をいただくべきかと思えます。そういうご提案をディスカッションしていただき、方向性を決めて、進めていきたいなと思っています。

委員：デザインを拝見させていただいて、やはり外国人が考えるような用意された和風、パッケージ化された和風みたいなものをありとあらゆる物を詰め込むことが必ず賛同に繋がるとは思わなくて、必ずしも目に見える物だけを提案するわけではと思っています。例えば、山口県の錦帯橋も同じように擬宝珠がついている木製の高欄が造られているんですが、再建の際に芯取り材を他府県のものを使っていて、当時の物を再建している。一般人から見たらまた同じ物が造られているという風に見えますが、こういうデザイン検討会議を山口県も行って、そこで集まった人たちがそういう選択をしたというのも一つのデザインの手法なのかなと思うし、必ずしも目に見える物全て置き換えていくことが良いデザインになるわけではないのかなと感じました。

委員：これは今のデザインに係わらず三条大橋の車道と歩道をわける防護柵ですよね。防護柵はある程度規定があって、四条大橋のように特別違う物はあるけれど、ここの三条大橋は今のこのデザインを見てると2本である

うが3本であろうが、僕は高欄も防護柵も丸でないとゴミが置かれるので、とりあえず丸形にしてほしいのと、それから車両の防護柵ならあまりお金かけないで作らないと仕方がない感じがします。

委員：舗装の件ですが、色は先ほどのグレーでもいいんですけども、四条大橋は雨の日に滑りやすく皆滑っている。それから木の舗装も雨の時に非常に危ないと思うんです。見た目にはいいかもしれませんが実際問題これから雪も降るでしょうし、そういう時に滑るんじゃないかと。鴨川の遊歩道に木の橋が架かっていて、毎日通っていますが、特に雨降ったら本当にこわい。雪が降ってもこわい。だから木の橋にするのは意味があるとは思いますが、歩く人からすると危ないんじゃないかと。四条大橋は、滑りやすいですから同じようにならないような舗装が望ましいなと思います。

事務局：補足で説明させていただきますと、木をそのまま使うというのは難しいと思っております、やはり耐久性の問題であるとか、滑りやすさを考慮すると、こういったものを舗装として本当に大丈夫なのかというのは疑問があります。案として出したのは、木目調のブロックの舗装で木のように見えるような舗装です。

委員：高欄について、課題は大きな材は輸入出来ないって言うことで、寄せ木でやるということなんでしょうか。大きな材が調達できないということだと思いますので。

事務局：芯去り材の調達は困難ですが、芯の有る木材であれば、京都市内産で調達ができるため、市内産の木材を使って改修する予定にしております。

委員：調達の目処はどうか。

事務局：使用する木材については、京都市内で採れる桧を使いたいと考えております。1つは三条大橋、鴨川上流側に生育している鞍馬の方の山に生育している桧を使おうとしている。先ほど申しましたように芯去り材は難しいですが、親柱の径を有した木材も一定目処がついているところです。ただ全部を鞍馬の山から切るわけではないですが、この木製高欄更新工事については施工業者と先日契約したところで、その他の木材についても調達に色々足を運んで探してもらっているところであり、いずれにしても京都市内産で準備できると考えております。また、事務局からご説明させていただいたように、50年前は台湾桧で外国の物を調達しましたが、コンセプトに説明させていただいたように鴨川流域で育った大きな桧を鴨川の橋に使うことが、大切な意味合いではないかと考えておまして、木材の確保に一定の目処が付いたのため、今般の更新工事を発注したという経過があります。一方、木材の専門家に聞きますと、原木をそういう形で見たとしても一定乾燥した時にどれだけの品質を確保できるかというのはある程度は樹皮を剥いてみないと分からないところがあるという不安要素があるものの、我々としてはできる限り、鴨川流域で育った桧を調達して参りたいという風に考えている所存です。

委員：ありがとうございます。おそらくそこが最大のハードルなんじゃないんだろかという風に思ってたんですけど、それがクリアできるのなら非常に良かったと思いますし、今まさにお話になったところがプロセスのデ

ザインだと思いますので、そういったような橋の改修に向けてのプロセス、物語を総動員するような形で、それをまたデザインに落とし込んでいく、と言うようなことが重要なのかと思いました。現状見るとデザインと言うよりは組合せの選択というような気がしないでもありませんので思い切った提案も含めて、果たして本当にデザインは何かの議論も必要なのかと思いました。

委員：今回高欄については元の状態に作り替える。材料の問題がある言うことは前から聞いています。どうしてそこまで京都産にこだわるのか。50年間これを維持するのに、それが京都の土地にそういうものが本当に育つ環境はあるのか、やはり日本産であればもう少ししっかりしたものが良いという風なことも聞いたことがありますので、海外からは無理だとして、京都にこだわる気持ちはわかるんですけど、本当に京都産でいいのかどうか。数年後に何か亀裂が入るとか。

また、三条通の歩道では、電線の地中化工事やってまして、歩道には御影石を使っています。これはグレーっぽいですが品目としては白御影です、本当はもっと白を選んでたんですが見比べますとあまりにも白すぎて、これはまずいということで少しグレー味を帯びた白御影にしました。それと河原町通りの白赤で作っておられる舗装は、華やかさを演出するということで色んな構成をされるんですが、歩道を目立たせてどうするんだ、そうじゃなくて店を目立たそうということで、単純な敷き方、色を混ぜない。さらに、御影石にも白と黒と赤とあるわけで、黒になると高く白が一番安い。ということで単純にお店を目立たすため、しかもインターロッキングではなく自然の御影石を使い、こういう白が、視覚的、予算的にも該当したので多少グレーの入った白御影を使っております。できましたら三条通の連続性を考えて、その延長で考えていただいたら非常に有り難い。

委員：先ほどからのデザインの話も3つあると思うんです。車両の防護柵、舗装の石、高欄の話があります。高欄の話は、先月も朽ちたところにたばこの火入れられて消防が出ました。その時は若い女の子が突っ込んだのを近所の人が消したと、その時に水かけたら下の土手を歩いている人が悲鳴をあげた。そういう話まで聞いてます。だけど高欄の方は今の新しい工法でCLT直交集成材という圧縮したもので、何十年もそのようなことがおきないような工法も取り入れてたらどうか。京都産であるかはともかく、生かし方があるのではないかというのが私の考えです。

議長：最近の技術では色々コーティング材も進みますし、できるだけ腐ったりしないようにしていただけると思います。

先ほど提案しました防護柵ですが、車両防護柵を既製品のパイプでやるのかあるいは少しオリジナルなデザインのものを採用するのか、その方向性はここで決めていきたいと思います。ご意見をいただきたいなと思います。

委員：非常に素敵なデザインを見せていただいたんですが、一応考え方としては、わたしが先ほど歩道で言いました店を目立たす、引き立てるための素材とかデザインであって、三条大橋も売りは木製の高欄だと思うので、それが引き立つような舗装であったり防護柵であったりということ。あまり難しいデザインをするよりは割とあっさりしたほうがいいのではないかと、それは色調も同じ。それとあと光、照明はすべて木製の高欄を引き立てる役割を担うものであること望ましいかと思えます。

委員：少し意見を言わせていただきますと高欄の木材ですけど地域産材を使うこと、河川の方の鴨川の保全会議ですと森林保全もとても大事で、京都府が今ある木を使っていくことを奨励しています。それは間伐材もそうですが、産地保存するということは要するに大雨や洪水などの災害に対する即興的な対策、SDGs グローバルな形として、地域の木材を使おうという、私自身はそういう見方をしてる。ただし、先程からご懸念のように芯が有るとか無いとか、自然の状態で育った木が一番強いのでそれを使うことは非常に重要になってくる。それから石舗装については、先程の三条通との連続性というのが非常に重要な点で、三条大橋につきまして、冒頭に自然環境が山であるとか、風致が明治時代から続いている京都の景観の大事なところですので、河川環境と高欄だけではなく高欄とまわりの風致の自然環境に合わせて色を薄くし、それから滑りにくさというのが出ましたのでそれでいくと本当の石、北大路橋等で使ってきた御影石、石高欄であると安定的に使えるが、木製高欄では、あまり白っぽい色にすると汚れが目立ち、まわりの環境と関係が出てくるので、若干色を落とした石を選んだ方がいい。

それから防護柵ですが、議長が「みやびな京都」をどう表現するか、コンセプトの1番目にあげていますので、これをどう実現するか、大きなテーマを投げかけたいと思っています。今までの橋の改修で防護柵がなぜ既製の物であったかという、車に対して車が衝突した時に川から落ちないという一つのポイントがあったんです。北大路の時も車に対し強い物でないといけないという基準から既製品を使ってきたということがあります。ただし、例外もいくつかあります。例えば昭和の終わりくらいに整備された西賀茂橋です。この橋では、高欄をデザインして、決めていったという例があります。

特注ができるのかとういことをまず京都市のほうで考えていただくとして、北大路なんかでは高欄が目立つように、メーカーカタログから私たちの方で選びました。私は基本的には特注にした方がいいと思います。

(スクリーンで説明)

具体例で説明しますと四条大橋の高欄は横に鉄製のレールと 内側の柵が非常に強い印象となっておりますが、外側の高欄も柔らかくコンクリートを曲線にしており、これは今の基準にはあたらぬ。例えば車が衝突すると柵は潰れる。今から考えれば安全基準クリアしてない。ただし、高欄はコンクリートなので車が突っ込んで落ちることはないということで成り立ってるわけです。

議長が考えられた提案されたものは、四条大橋はこういう考え方。これを三条大橋で例え、具体的に四条のような柵を使う。そうすると三条大橋では、外側の強い印象と内側が強いデザインとなりますので、少し印象が違います。近世以前の橋と近代の橋が両方強く出てしまうということがあるかもしれない。三条大橋では、四条大橋のような柵は強い表現になってしまう。パネルでも既製品で高欄内側に持ってくるのも可能で、非常にシンプルなデザインで、川の表情を表す。西賀茂橋では、尾形光琳のすずり箱なんですけど、このデザインを見て日本の文様をモチーフにしています。鴨川とかのイメージで作ってしまうとイメージが固定されて飽きてきたりする、こういう抽象的な画像であるとするときれいなものである。非常に特徴のあるデザインはありえるわけです。光琳などのモチーフとなるものを少し選びながらデザインしていく考え方があるかもしれませんし、四条通りみたいにコンペみたいなことをするっていう大がかりなことはしませんが、そういう形でやっていくという可能性は京都らしさと表現できる。それともう1つ、最近のパリのトレンドで、全体に石の柱で重厚感がある中で透感のあるデザインであって、軽量化とかシンプルなモチーフが、今のパリのトレンドなんです。もう少し前のトレンドからいくと重厚感というのがあって、外から内側へあえてデザインする、これとさっきの木の高欄が合うかどうかを検討していかないといけないかもしれませんけど。高欄を徹底的に目立たせるのであれば、

こういう西洋柄の、それから和風のデザイン歴史的なストーリーを入れ込もうとするというような大きな方向性、例えば両方比較してみて選択するか、やっぱりこっちでないといけないという風を選んでいただくが、まずは事務局にデザインが本当にできるのかということを決め、議論のポイントにさせていただきたいと思います。

事務局：少し基準的なお話ししたいと思います。今回歩車道境界に車両用の防護柵を設置しようとしています。これはなぜ設置しようとしているかという、三条大橋の下側には遊歩道があります。車両がもしこの防護柵を突き破って下へ落ちると第三者被害がおきる。この防護柵の設置には基準があるんですけどもこういった可能性があるところについては必要に応じて車両用防護柵を設置します。また、歩道と車道の間に段差があればそこに車のタイヤがあたって跳ね返るんですが、段差が低いところについては歩行者の安全を確保する意味で車両用の防護柵を設置する、そういう基準になっております。そうすると車両を止めるためには必ず水平のビーム、これが必ず要る。それを付けるための支柱も必ず要る。ここからデザイン的な要素を求めるとこれに取り付けるデザインパネルのような物を検討していくことになります。

議長：今日かなり詰めたいと思ってたんですけど、今日最終案になる必要はありませんので、実際もう少し比べられるようなデータがそろえば3回目で決めたいと思います。それでは照明について説明をお願いします。

事務局：(歩道照明、橋梁側面照明に関するデザイン案について説明。)

議長：これはどこから照明するんですか。

事務局：今考えているのは地覆の部分、木製高欄の外側の一番下の部分から照らすイメージで考えています。以前景観政策課にて社会実験で三条大橋のライトアップをした実績があり、そちらのほうを参考にしています。

委員：あの時は、南側からのみのライトアップ。北側からのライトアップはなかった。今回は両方ですか。

事務局：そうです。

委員：常にとということですか。

事務局：詳細は今後詰める必要がありますが、深夜は消すという選択肢はあるかと思います。

委員：景観施策の方で試験的にやられたライトのチューブ、様々なパターンを試していたと思います。色味とか明るさとか。また夜の景観ラインも作っておられるので、そこ調整するっていうのが大前提かと思うんですが、もう少しバラエティがあった方がいい。今回は高欄のそこだけですけれど、橋脚のところとかライトアップを考え方もっと色んな見せ方のパターンというものがあると思うんです。これはほとんど選択肢がないに等しいようなご提案だと思うんですけども、可能性としてはないものなんでしょうか。

事務局：橋脚を照らす案もちろんあるとは考えてます。ただ今回、下部の方は今後工事の方も入っていきますので、とりあえずその上の照明を考えてるのがひとつと、恒久的に照らすのであれば、川の生態系という問題もあります。

議長：七条大橋の会は自分たちのお金で照明の器具も全部借りてきて照らしています。ぜひとも三条大橋も周辺の方々の団結力発揮して頂ければと思います。

委員：自然のエネルギーを利用するような方法はありますか。

事務局：太陽光にしてもやはり中々充電が十分出来ないこともあり、電力を長時間確保することは中々厳しいと思います。

委員：マイクロ発電は。

事務局：マイクロ発電と言っても恒久的に長時間公共施設として整備すると言うのは、課題が多くあると思っています。

議長：最後の側面の照明非常にきれいですね。どうでしょうか。あまり照らしすぎたらと言う風な方おられますでしょうか。

委員：やっぱりライトアップと言うのはプロのデザイナーがいるのと同様で、たとえば今はのっぺり平面的に照らすと言うようなアイデアかと思えますけども、陰影をうまくデザインするという風なところがライトアップの見せ方だと思います。このライトのデザインこそ照明デザイナーを入れて陰影も含めてデザインしていくのが必要なのではないのかという風に思います。

議長：舗装面のライトアップはどうでしょうか。

委員：照度の安全性はどうですか。

事務局：基準といたしましては、歩行者が夜でも歩いて安全な基準があります。現在の照度は確保できています。

委員：ここは近くに住んでおられる方が、現状をどういう風に感じられていて、それをどう残したいのか変えていきたいのかというところがもう少し意見があればと思います。個人的な印象として比較的このまわりが明るいので、あまり三条大橋を、特に内側をギラギラしすぎるとちょっと品がないかなというのもありまして、特に今安全に渡れているのであれば、それほど大きく変える必要はないのかなと思っています。照明の話等を含めて今気になっているのが、せっかく決めたデザインコンセプトと今回ご提案いただいても案がどう対応するのかっ

て言うのが見えなくて、安全安心は非常によくわかるんですけど、安全安心以前に先ほどわたし順番が大事だと言う風に言ったのは、安全安心は今4番目に埋もれてこれは当然外すことはできないにしても、先ほどの玄関としての顔をデザインコンセプトに置いたので、こういう照明がいいとか、こういう見せ方がいいとか、ポジティブに意見を向けてほしい。せっかくデザインコンセプトを出したんだけど、それとデザインが繋がるのか想像しにくいと思いました。京都の玄関の橋という位置付けですので、玄関ですけどやっぱり親柱があって、木製高欄がある種玄関を表すのかなと言う風に感じてるので、そういう意味で言うとやはりそれが引き立つような防護柵や照明のデザインをそういうところと結びつけて提案していただくのが一番いいかという風に思っております。今その辺の見せ方、提案いただいている内容は、既製品があるからこういう形でしか出来ませんみたいな感じで、消極的だという風には思っているので、既製品になってもこのデザインコンセプトと合うのであれば、これで堂々と胸張って提案できるかなという風に思います。

やはり京都の玄関あるいは文化を未来に継承するという意味でも木製高欄が照明できれいに見える形がいいかなと思いますし、先ほどおっしゃったようにそれが一様に照らすのと、アクセントをもって照らすことでは印象が変わりますので、そのあたりはこれから詰めていくところかなと思います。デザインコンセプトがこれだからこういう選択をした、というような流れで説明ができるようにしたほうがいいという風に思います。照明以外も含めてです。

委員：外側からきれいになったときに、光が内側で橋を渡ったときにどういふ風に反射がしてくるかを非常に知りたいなと思いました。

議長：そのとき親柱はどうなるのか。やっぱり親柱は光と灯籠がないから、親柱もしっかりみせていただくのが大事かなと思いますね。

委員：暖かくして迎えると言うのは、今までも北大路橋、最近で行くと河合橋もそうですし、LEDの照明はすごく目に差すので、それをできるだけほんのりオレンジ色の暖かみのある色のものを内側の部分でと思います。

議長：パースだけで決められるのか、あるいはある程度現場実際にやってみないと分からないと言う点もあるかもわからない。歩道を歩いてたときに親柱がどういふ雰囲気になるのかは工夫をしていただけたらありがたい。

委員：四条大橋を歩いてた時、細いヒールの靴をはくと、コンクリートのタイルとタイルの間に溝があって、いつもそこで引っかかっていつも靴キズつける。女性はみんな言っていて、三条大橋はそれがないようにしてほしい。素敵な風になればいいなって思いますし、車道の方の防護柵も木の感じと雰囲気が合えばそれでいいなと思います。

委員：一体開発とか周辺開発のお話も本当はできればと思います。議長がおっしゃったように三条通りの歩行者天国とか、車が走ってることで難しい状況だと思いますが、今回は橋のデザイン検討の会議のため、そこまで触れません。また、京都マラソンの終着点が平安神宮なんですけど平安神宮はたったの100年の歴史しかないんで

すが、そのようなイベントを三条大橋にもってくるには、相当の馬力があるんじゃないかなと思います。デザイン会議ということですが、橋周辺があまりにも寂しそうで、なんとか賑やかにしたいと思います。

委員：三条大橋の車両防護柵について、ちょっと小さいお子さんとかが通ることも考えたりする時に、観光客の方はお子さんを割と勝手に歩かしてたりすることも見たりするので、さっき言われたデザイン的な物があつたりしたほうがぐり抜けられなかったりするのとか。それと柵の材質がステンレス、鉄とか 夏の暑いときに温度上昇して、子どもが触ったら危ないとかそういう細かいところが気になりました。照明もちょっと暗いという気もしてて、車椅子乗ってる方とかがどんな感じかという目線の低い方のことも付け加えていただければと思います。

4 次回第3回の案内、木製高欄更新工事に関する情報、閉会の辞